

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008(平成20)年2月27日
調査実施の時間	10時00分～終了16時00

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームほほえみ (大阪府)
-------------------	----------------------

外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 柿本 美津代 氏名 南 マエ
事業所側対応者	職名 ホーム長 氏名 中尾 信也 ヒアリングを行った職員数 (2)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。

「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	2775003060
法人名	有限会社 三栄
事業所名	グループホームほほえみ
所在地	東大阪市岸田堂北町5-6 06-6728-3016
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10ATCビルITM棟9階
訪問調査日	2/27/2008

【情報提供票より】(平成20年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	4/1/2003
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	人 常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 4

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(294,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有5年/ 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成20年1月31日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 78歳	最低	68歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田内科クリニック、今中歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅前には大型店舗がそびえ、商店が続く。商店街を抜けて進み、幹線道路を一本入った生活道は車の往来も少なく、昔ながらの家屋が建ち並んでいる。その中の一軒が「ほほえみ」である。外観は一般の住宅と変わりなく、1階がホーム、2階がホーム長両親の住居、3階が物干し場となっている。家の前には手入れされて元気に育った植木が並べられており、明るい印象を受ける。ホーム内では毎日ほぼ全員が食堂兼居間に顔を出し、それぞれに過ごしながらかも和やかな雰囲気である。職員の対応も表情も感じがよく、やりがいを感じながら積極的に仕事をしている様子が伝わってくる。職員の定着もよく、職員間、利用者との人間関係も良好であることが伺われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部研修には今後も積極的に参加し、日常職務を見直し、サービスの質の向上につなげていただきたい。次年度は内部研修に新たに取り組む姿勢であるので内容と成果に期待している。バイタルチェック表に食事摂取量も記入されるようになり健康管理に役立っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 記入はホーム長が行ったが、自己評価することによって現状の問題点を改めて再認識したことと思う。今後の改善点はこちらが指摘するまでもなくホーム長自身で理解しておられる。日々の努力は重々承知の上、質をさらにステップアップさせる機会にさせていただければ本望である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 入居者のよりよい支援について様々な立場から意見を出し合って検討できる機会であり、たいへん貴重で有意義な会議であるが、現状は、二ヶ月に一度の開催もままならず本来の役目を生かしてきていない。年間開催日を固定するなどし、まずは会議の定着を図っていただきたい。各関連機関とは定期報告も兼ねて積極的に連携をとっておき、情報交換によって視野を広げながらよりよいサービスの選択に役立てて欲しい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見、苦情には随時対応している。内容は全職員に伝えられ、即座に検討・改善をしている。月刊新聞を発行してホーム全体の出来事や写真を載せる等して様子を知らせることで、家族の不安や心配も多少軽減され、協力・理解も得やすい。家族とは普段から連絡を密にし、本音を話してもらえる信頼関係を結ぶ努力をすることはいうまでもない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者各自が老人会々費を払い、地域の一員として敬老会等に参加している。ホーム長、父親共に長年この地に暮らして地元とのつながりが深いこと、親子共に地域の役職を担い信頼の厚いこともあり、地域からの受け入れは好意的である。今後は地域向けに勉強会を案内する等、専門機関としての情報提供や相談窓口的な役割を果たし、地域貢献していただきたい。各種ボランティア受け入れ体制の整備も今後の課題である。

2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p style="text-align: center;">・理念に基づく運営</p> <p style="text-align: center;">1. 理念と共有</p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「個々の尊厳の尊重」「家庭的な雰囲気の中での生活支援」「地域とのふれあいと心豊かな生活」とう運営理念を掲げている。</p>		<p>小さい紙面ではあるが居間に掲示もされており、職員も周知している。</p>
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>事業所内に理念を掲示しており、ミーティング等で、スタッフには周知している。</p>		<p>理念を念頭に支援しているが、入居者の自由に任せるだけがよいのではなく、入居者に手伝いを促したり役割を待たせることも必要である。役割分担、残存機能の保持も本当の意味での「尊厳の尊重」である。</p>
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>入居者各自が老人会々費を払い、地域の方々と交流をはかったり、活動にも参加している。敬老会にも参加している。</p>		<p>ホーム長、父親共に長年地元で暮らし、地域の役職を担っていることもあり、地域活動には比較的参加しやすい。今後は勉強会の参加を呼びかける等の地域貢献が期待される。</p>
<p style="text-align: center;">3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>					
4	7	<p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価の意義は感じつつも、改善計画をたてるなど、具体的な取り組みに対して出来ていない所がある。</p>		<p>自己評価・外部評価をさらなる質の向上として捉え、指摘された点については改善目標として受け止めていただきたい。次年度では年間計画を立て、具体的に取組もうとする姿勢がつかえる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現状では2ヶ月に一回のペースでの開催はしておらず、会議の内容を活かしきれていない。構成員の中に市職員又は包括支援センターの職員を入れ、充実させてゆく計画はある。</p>		<p>日々多忙な中、会議を開くことに労力が割かれる困難さは推測できる。しかし、様々な立場の人が意見交換できる会議は貴重である。「奇数月の第3土曜」というように年間開催日を固定して、まずは開催の定着を図っていただきたい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在のところ市町村と定期的に行き来する機会はない。入居者の必要に応じて相談に行くにとどまっている。</p>		<p>生活保護受給者も入居していることもあるので、担当者への定期報告を兼ねて積極的に連携をとっておき、既存資源の有効活用につなげて欲しい。</p>
き、					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問に来る来ないにかかわらず、月に一度、請求書の送付と共に入居者の近況を一人ずつ手紙で知らせている。家族からは楽しみにされ喜ばれている。</p>		<p>月刊新聞としてホーム全体の出来事やお知らせを載せ、その一部に各自の報告を記入する形に変更を検討中である。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見は随時受け、苦情記録をとり、職員に周知徹底している。</p>		<p>ホーム長も前向きに改善していく姿勢である。普段から家族と本音を言える信頼関係を築いておくことは言うまでもないが、アンケート等の積極的な苦情収集も試みられたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設時からの入居者、職員が大半で、お互いに馴染み深く良い関係を築いている。またこの良い関係を崩さないよう、努めている。</p>		<p>夜勤に関しては、ホームの2階に居住するホーム長の両親が勤務することで他職員の負担を軽減させている。職員の勤務時間や休日も希望を聞き配慮されており、職員からの不満はなく定着率が高い。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部、外部研修の計画をたてスタッフの質の向上に努めている。外部研修の案内をし、希望者は勤務扱いで参加させている。</p>		<p>必要な研修には積極的に参加し、研修内容をスタッフ全体で共有して常に研鑽を積んでいただきたい。来年度より月に一回、内部研修をする年間計画を立てており、意欲的に取り組んでいる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会を通じて交流を行っている。同業者との交流はホーム長の友人関係で不定期に会を設けるに留まっている。近隣のグループホームとも連携していくと考えている。</p>		<p>グループホーム協会に加盟することで、新しい情報や研修案内が常時送られ、業会の動きを知ることができている。職員、入居者レベルでの交流にまでは至っていないので、互いの質の向上につながる交流を模索して欲しい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人、家族に生活歴や性格、要望などを聞き、ホームの理念、方針と照らし合わせながら話し合い、納得の上で利用を開始している。</p>		<p>できる限り希望に沿うような支援を行っている。その人のペースを大切に、無理強いすることなく徐々に馴染んでいけるよう働きかけている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の立場にたって、共感、共有を大切にしている。毎日一緒に歌を歌い、お気に入りのテレビを観、同じ物を食べ、一緒に生活してきたことで相手の性格や好み、生活習慣等も熟知している。</p>		<p>信頼関係があるその上での声かけであり、見守りであり、共感である。長い時間をかけて築いてきた信頼関係があつてこそできることだと感心する。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人らしさを維持していけるように、援助に努めている。入居者が少人数であること、職員の入替わりが少ないことで、長期にわたって関ってきており、各人の思いや意向は把握できている。</p>		<p>重度化して意思表示の困難な事態の到来に備え、あらかじめ希望、意向を聞いており、事業者として物心両面の準備の努力をしている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人により近く、日々の変化に気づきやすい職員の意見は重視している。</p>		<p>前向きなホーム長の姿勢もあって、職員も意見を言いやすいようである。本人や家族はもちろんのこと、内容によっては関係各者と検討して最善の介護計画を作成するよう努力している。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況に応じて、適時行っている。</p>		<p>ホームで対応できない状況に際しては、「対応マニュアル」も作成されており、提携医療機関・施設、また市町村担当者と連携し、入院、転居等をおこなっている。その対応については入居時に本人・家族との同意書を交わしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>少人数による利点を生かし、個別に対応した支援を行っている。</p>		<p>開設5年であるが、大方が開設時からの利用者、職員である為、人柄を理解した上で良い関係を築いている。少人数で家庭的である利点を生かし、突然の個々の要望にも応じやすい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診による健康管理を行っており、必要に応じ、専門医による診察もしてもらっている。		特に内科疾患のある入居者はいないが、内科医師が週一回定期的に往診して健康チェックしてる。その他の受診については本人・家族の希望により随時対応している。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針を定め、方針を共有してる。「利用者の重度化及び看取りに関する指針」が作成されており、入所時に説明を行っている。		「利用者の重度化及び看取りに関する指針」の説明を入所時に行う。利用者、家族の同意書も有り、同意、協力を得ている。今後利用者の高齢化、重度化は必至であり、職員の増員、確保にむけ、職員募集の対策をとっているところである。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のプライド、価値観に配慮した言葉がけ、対応に努め、個人情報には留意している。		個人記録等の個人情報は別の場所に保管されている。職員は尊厳・プライバシーの尊重について認識しており、言動にも配慮している。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は基本的には利用者の希望に合わせている。		食事時間も基本的には利用者の希望に合わせているが、現在は全員が定時に集まり一緒に食事をしている。またNHKのテレビ体操も日課となっている。それ以外の時間はテレビをみたり、懐メロや童謡を歌ったり自由にのんびりとすごしている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決めたり、買物、配膳など意見を求め、共に行うように努めている。		台所が狭い為、一緒に準備することは難しい。また現状は積極的に手伝うことは少ない。皮むきや、配膳の手伝い、程度である。買い物は一緒に行く。献立は希望を聞き一週間単位で立ててはいる。が、特売品や旬の物があると臨機応変に変更している。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、希望タイミングに合わせて支援している。週2回の入浴は9人続くため、朝から順次入浴している。		一日に集中させることなく、今後は一日に数名ずつ最低週に2回は入れるよう調整されたい。風呂を嫌がる理由を考え、工夫や改善点を見つけ出して欲しい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	春(5月)秋(11月)の年2回、家族にも声をかけて食事会を行っている。春にはお弁当を持ちお花見に出かける。		配膳の手伝いや洗濯物をたたむ等の役割を促している。一緒に歌ったり好みのテレビを録画しておいたりしている。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ、外出支援を行っている。毎日ではないが天気の良い時は散歩に出かけている。		食事の買い物に同行したり、希望があれば職員と一緒に近くの店まで往復する。家の外の植木の水やりをすることもある。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今のところ施錠していない。施錠は原則しないように努めているが状況に応じて、行わざるをえないときもある。		以前知らぬ間に利用者が出て行ってしまい大騒ぎした経験から、玄関にセンサーをセットし、出入りがあるとチャイムが鳴るように改善して事故を防止に努めている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難マニュアルの周知を行っているが具体策を講じる必要あり。今後、地域の方々にも協力してもらえよう働きかけていく。</p>		<p>避難訓練をすると入居者が動揺するので今まで訓練はしていない。今年度は年間研修として組み込んでいる。入居者の誘導や避難経路の確認等、職員向けの訓練である。消防署の指導も受けておくと参考になる。</p>
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各自入居者の食事摂取量は記録されている。水分摂取量の記録はないが、食事時、お茶の時間、おやつなどの時間などで水分を摂るようにしている。</p>		<p>食事制限のある入居者がいないこともあり、栄養バランスや摂取カロリーに関して栄養士の指導は受けていない。老年向け献立講習を受けるなり、アドバイスを受けるなり、専門施設として向上努力を意識して欲しい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が安心、安楽な空間であるように工夫している。</p>		<p>共同スペースは全体的に狭く、台所には共同作業をする場所はない。浴室・トイレもいずれも一人で入るだけの空間しかなく、介助はかなりしにくい。食堂兼居間で一日の大半を過ごしているが、小さなソファしかない為、食卓のいすに腰掛けたままである。何かくつろげる工夫を望みたい。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の持ち込み物に関しては、特に制限していない。本人の使い慣れた物や好みの物を持ち込み、活かし使用している。</p>		<p>ベッドは定位置に備えつけられている。他の家具、備品は本人の自由であり、暮らしやすいように配置されている。各部屋ごとに個々様々な居室空間となっている。</p>

は、重点項目。